

口腔顔面痛学

責任者名：野間 昇

学期：前期

対象学年：6年

授業形式等：講義

◆担当教員

野間 昇(口腔診断学 准教授)

北原 功雄(口腔診断学)

篠崎 貴弘(口腔診断学 専任講師)

林 良憲(生理学 准教授)

岡田 明子(口腔診断学 准教授)

中田 樹海(口腔診断学 兼任講師)

◆一般目標 (GIO)

学生が口腔顔面痛学のさまざまな病態を学ぶために診査・診断を理解し治療方針を実施できるようになる。

◆到達目標 (SBO s)

口腔顔面痛発症の基礎的メカニズムを説明できる。

口腔顔面痛疾患について、典型的臨床経過を述べる。

口腔顔面痛疾患について、診断の要点を説明できる。

口腔顔面痛疾患について、その鑑別診断を説明できる。

口腔顔面痛疾患について、鑑別診断を考慮に入れた治療法を列挙できる。

◆評価方法

6月23日：授業中に平常試験テストを行う（50%）。定期試験（50%）で評価する。欠席は総合評価から減点の対象となるので、欠席しないこと。6月30日にフィードバックを行う。

◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
野間 昇	水曜日 17:00～18:00 口腔診断科医局	noma.noboru@nihon-u.ac.jp 03-3219-8099	
篠崎 貴弘	水曜日 17:00～18:00 口腔診断科医局	shinozaki.takahiro@nihon-u.ac.jp 03-3219-8099	
林 良憲	水曜日 17:00～18:00 生理学教室	hayashi.yoshinori@nihon-u.ac.jp 03 - 3219 - 8122	
岡田 明子	水曜日 17:00～18:00		

	口腔診断科医局		
--	---------	--	--

◆授業の方法

教科書および、講義時に配布するプリント（またはPDF）をもとに講義形式で行う。顎口腔領域及び関連する全身疾患の病態や診断法を理解し、歯科・医学領域の基礎知識を確実にする。

演習では、第1～9回までの内容+全身疾患（症例提示）で理解度をチェックします（歯科医師国家試験の内容に準じて出題する）。

【実務経験】野間昇：口腔診断科およびペインクリニック科での臨床経験をもとに、侵害受容性疼痛、神経障害性疼痛、関連痛、がん性疼痛の講義を展開し、歯科医師国家試験をもとにわかりやすく説明したいと思います。

【実務経験】篠崎貴弘：心療歯科での臨床経験をもとに、舌痛症、心身症、慢性痛疾患についてわかりやすく説明したいと思います。

◆教材（教科書、参考図書、プリント等）

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
教科書 1.	口腔顔面痛の診断と治療ガイドブック第2版	日本口腔顔面痛学会編	医師薬出版株式会社	平成 28 年
プリント配布				

◆DP・CP

DP1

コンピテンス：豊かな知識・教養に基づき高い倫理観

コンピテンシー：医の尊厳を理解し、法と倫理に基づいた医療を実践するために必要な豊かな教養と歯科医学の知識を修得できる。

CP5

研究で明らかとなる新たな知見と研究マインドをもとに、歯科医学の課題に挑戦する学生を育成する。

CP8

各学年における学修で得た歯科医学の知識、技術および省察力をもとに、歯科医師として生涯にわたり学修する姿勢を育成する。

◆準備学習(予習・復習)

事前に必ず教科書を読んで、授業内容の目的を理解しておくこと。授業後、教科書あるいはプリントを使用し復習すること。

◆準備学習時間

授業時間2倍相当を充てて予習あるいは復習を行うこと

◆全学年を通しての関連教科

解剖組織学 (2 年前期)

生理学 (2 年後期)

感染・微生物学 (3 年前期)

生体機能制御学 (3 年後期)

歯髄・歯周疾患治療学 (4 年前期)

顎口腔疾患・治療学 (4 年後期)

◆予定表

回	クラス	月日	時限	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1		4.7	3	1. 歯科領域の神経解剖 (教1) pp.2-13	・頭頸部の神経(三叉神経, 舌咽神経, 顔面神経, 副神経, 迷走神経, 副神経, 舌下神経)の解剖と機能について理解できる。 ・脳神経の走行, 分布及び線維構成を説明できる。	野間 昇	C-3-4)-(5) 神経系
2		4.14	3	2. 急性痛, 慢性痛の定義と評価法, 痛みの分類(教1) pp.2-7, 75-76 4. 運動障害 1)顔面神経麻痺 2)Ramsey Hunt 症候群 (教1) pp.82	・急性痛と慢性痛の性質を学び, その相違について理解できる。 ・顔面神経麻痺の原因, 症状及び治療法を説明できる。 ・唾石症の特徴, 症状, 診断法及び治療法を説明できる。(腺体内唾石手術後の顔面神経麻痺)	野間 昇	C-3-4)-(6) 感覚器系と感覚
3		4.21	3	3. 侵害受容性疼痛 (教1) pp.152-156	・侵害受容性疼痛について説明できる。 ・歯原性歯痛, 歯髄炎の疼痛機序を説明できる。 ・消炎鎮痛剤の種類と作用機序について説明できる。	野間 昇	E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因
5		4.28	3	5. 痛みの基礎 (教1) pp.13-23	・疼痛異常の神経メカニズムを理解できる。 ・侵害受容性疼痛の神経メカニズムを理解できる。	林 良憲	C-3-4)-(5) 神経系

4		5.12	3	4. 体性痛（深部痛）と関連痛，歯原性疼痛と非歯原性疼痛 『プリント配布』	<ul style="list-style-type: none"> ・非歯原性疼痛の鑑別診断について理解できる。 ・急性炎症と慢性炎症の異同を説明できる。 ・炎症の診断に必要な検査法を説明できる。 ・主な炎症（舌炎，口唇炎，口底炎，智歯周囲炎，歯槽骨炎，顎骨炎，顎骨骨膜炎，顎骨周囲炎，下顎骨骨髓炎，蜂窩織炎，歯性上顎洞炎等）の症状と治療法を説明できる。 	野間 昇	E-2-4)-(3) 神経性疾患
6		5.19	3	6. 神経障害性疼痛 1)帯状疱疹 2)持続性神経障害性疼痛 (教1) pp.195-208	<ul style="list-style-type: none"> ・三叉神経麻痺（感覚麻痺，運動麻痺）の原因，症状及び治療法を説明できる。 ・帯状疱疹の病因を説明できる。 ・帯状疱疹後神経痛の病態を説明できる。 ・神経障害性疼痛の治療を説明できる。 	岡田 明子	E-2-4)-(9) 神経性疾患
7		5.26	3	7. 三叉神経痛 (教1) pp.190-194	<ul style="list-style-type: none"> ・三叉神経痛の病態を説明できる。 ・三叉神経痛の特徴を説明できる。 ・三叉神経痛の治療法を説明できる。 	北原 功雄	E-2-4)-(9) 神経性疾患
8		6.2	3	8. 体性痛（体表痛：皮膚や粘膜の体の表面の痛み）がん性疼痛 (教1) pp.239-243	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。 ・水疱，紅斑，びらん，潰瘍，白斑，色素沈着等を主徴とする口腔粘膜疾患の症状及び治療を説明できる。 ・がんの痛みを説明できる。 ・WHO のがん性疼痛の治療方針を説明できる。 	野間 昇	E-2-4)-(4) 口腔粘膜疾患
9		6.9	3	9. 顎関節症筋骨格性疼痛と顎関節疾患 (教1) pp.165-189	<ul style="list-style-type: none"> ・顎関節症の病態を説明できる。 ・顎関節症と咬合習慣について理解する。 ・顎関節症の治療法を説明できる。 ・顎関節疾患（発育異常，外傷，炎 	野間 昇	E-2-4)-(7) 顎関節疾患

					症，退行性顎関節疾患，顎関節症，顎関節強直症，腫瘍及び腫瘍類似疾患)の症状，診断法及び治療法を説明できる。		
10		6.16	3	10. 心身症の診断・治療について 1) 心理テスト 2) 心理治療について 『プリント配布』	・心理テストの目的と意義を説明できる。 ・舌痛症を説明できる。	篠崎 貴弘	E-5-3) 精神・心身医学的疾患
11		6.23	3	平常試験	第1回～第10回までの平常試験を行う。	野間 昇	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識
12		6.30	3	11. 心身医学と心身相関について 『プリント配布』	・心身相関を説明できる。 ・口腔顔面領域に関連して現れる精神・心身医学的病態を説明できる	篠崎 貴弘	E-5-3) 精神・心身医学的疾患
13		7.7	1	12. 歯科領域の精神医学 (サイコ・デンティストリー)	・歯科治療恐怖症を説明できる。 ・心身医学的治療を説明できる。	篠崎 貴弘	E-5-3) 精神・心身医学的疾患
14		7.7	2	演習	・第1回～第13回までの理解度をチェックする。 解説により授業内容の理解度を図る。	中田 樹海	
15		7.7	3	演習	・全身的症候・病態を説明できる。 (血液・造血器・リンパ系：内分泌系：免疫・アレルギー：神経系)	野間 昇	E-2-4)-(8) 唾液腺疾患

